

4-5 伊勢志摩国立公園と志摩市・鳥羽市の事例

1. 伊勢志摩国立公園の概要

■名称

伊勢志摩国立公園（昭和 21 年 11 月 20 日指定）



伊勢志摩国立公園 英虞湾の風景

■指定面積・区域

土地所有別面積 (ha)

国有地	公有地	私有地	所有区分不明	公園面積 (陸域のみ)
165	1,997	53,382	0	55,544

地種区分別面積 (ha)

特別地域				普通地域	公園面積 (陸域のみ)
特別保護地区	第1種	第2種	第3種		
1,003	1,128	6,600	8,778	38,035	55,544

集団施設地区面積 (ha)

集団施設地区名	区域面積
登茂山	111.0
横山	51.0

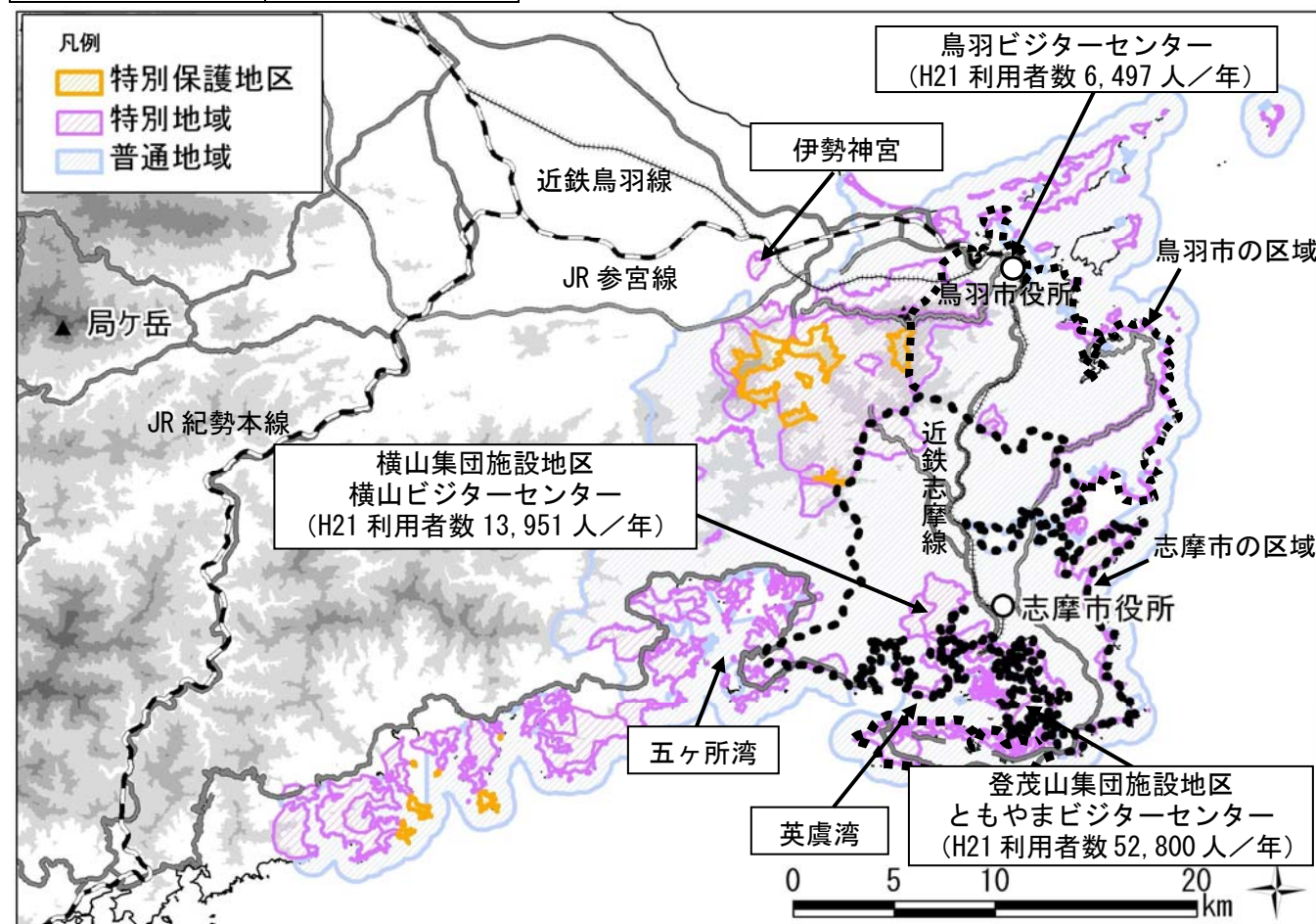


図 伊勢志摩国立公園の区域

出典：国土数値情報（行政区域データ、標高・傾斜度 3 次メッシュ、鉄道データ）国土交通省。

環境省；2008 平成 19 年度生態系基盤情報整備業務。

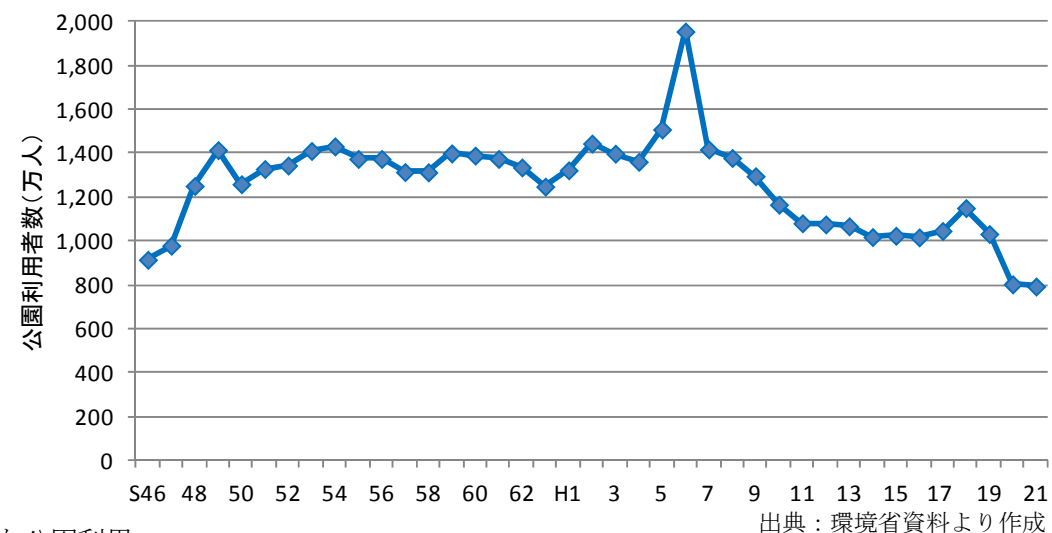
注：志摩市及び鳥羽市の区域については一部離島を表示していない。

■公園利用

利用者数

利用者数は、昭和 50 年代から平成 5 年頃まで 1,300~1,400 万人程度で推移してきた。その後減少傾向に転じ、現在は 800 万人程度。

伊勢志摩国立公園の利用者数



主な公園利用

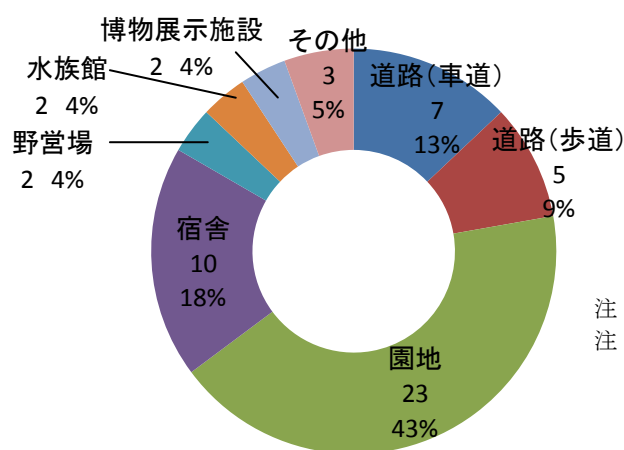
- ・ドライブ及び眺望利用
- ・歩道等の散策
- ・自然観察会等の行事参加
- ・海水浴やサーフィン等
- ・伊勢神宮への参拝

出典：伊勢志摩国立公園管理計画

公園事業による利用施設等の整備

主に徒歩による散策等、宿泊利用、自動車による移動などのための施設が整備されている。

伊勢志摩国立公園
公園事業執行件数 (平成23年10月現在)



注：「その他」は休憩所、運動場、駐車場

注：公園事業とは、国立・国定公園の利用施設等を整備するための事業で、環境大臣、都道府県知事、その他認可を受けた者が執行する。

出典：環境省資料より作成

2. 志摩市・鳥羽市の社会経済状況

(1) 志摩市・鳥羽市の概要

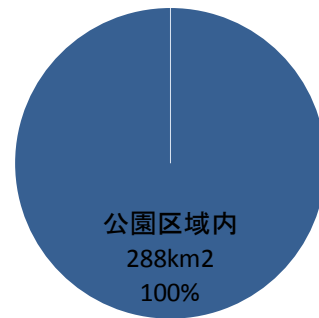
- ・両市は伊勢市、南伊勢町とともに伊勢志摩国立公園の関係市町村の1つ。
- ・温暖な気候や地形をいかした水産業や農業、観光業が経済の基盤。

	面積(km2)	可住地面積(km2)	可住地面積の割合	人口(人)	人口密度(人/km2)	財政力指数H20
志摩市	179.72	75.17	42%	53,969	300	0.52
鳥羽市	107.99	33.11	31%	20,936	194	0.54
三重県	5,777.22	2,022.58	35%	1,854,742	321	0.67

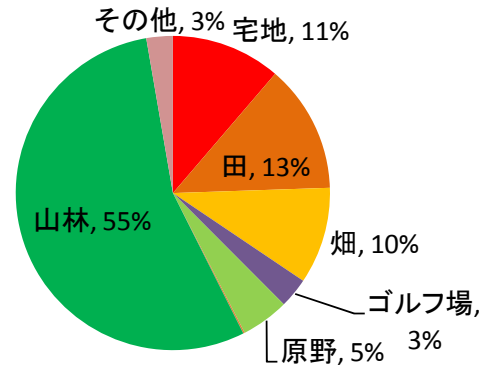
注：志摩市・鳥羽市の人口はH23.9現在、三重県の人口はH22.10現在



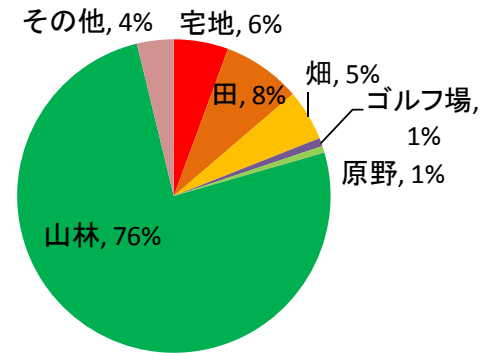
志摩市・鳥羽市の区域のうち
国立公園の占める割合



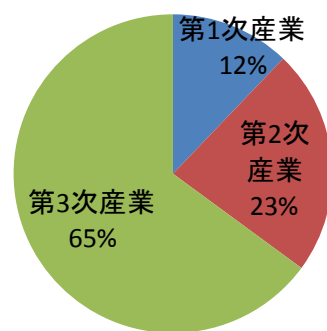
志摩市 地目別面積(H22民有地)



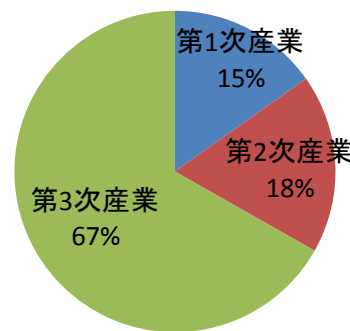
鳥羽市 地目別面積(H22民有地)



志摩市 産業別就業者割合(H17)



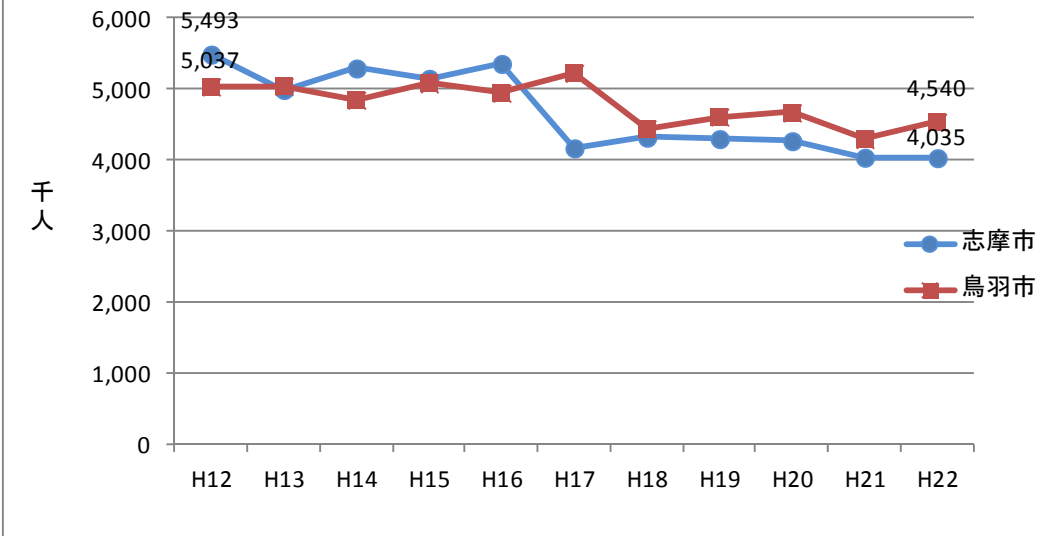
鳥羽市 産業別就業者割合(H17)



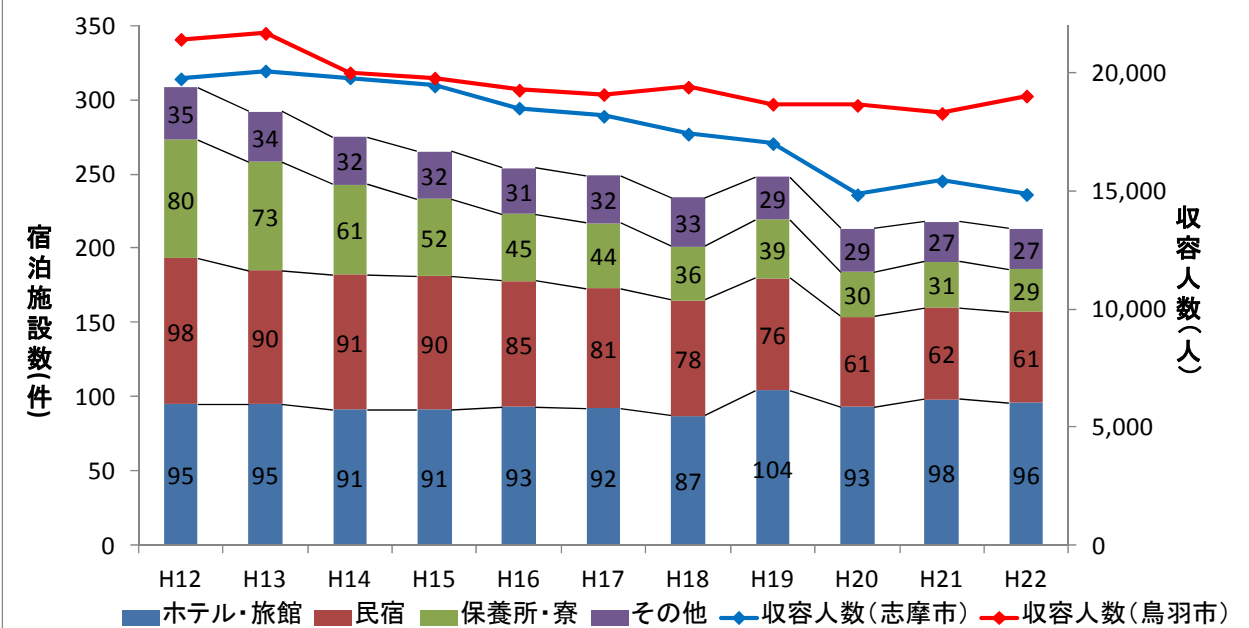
(2) 観光

- ・志摩市の観光入込客数は平成17年頃を境に約2~3割減少し、年間400万人程度で推移。鳥羽市については平成18年頃を境に約1割減少し、年間450万人程度で推移。
- ・志摩市の宿泊施設の収容人数は、10年前には2.0万人程度であったが、その後漸減し1.5万人程度で推移。鳥羽市については、同様に2.1万人程度であったが1.9万人程度で推移。
- ・志摩市の宿泊施設数の内訳を見ると、民宿や保養所・寮は減少しているがホテル・旅館の数は横ばいである。

志摩市と鳥羽市における観光入込客数の推移



宿泊施設の収容人数(志摩市・鳥羽市)及び宿泊施設数(志摩市)

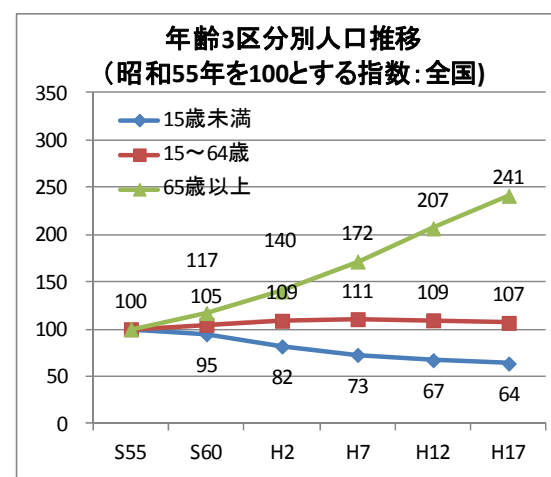
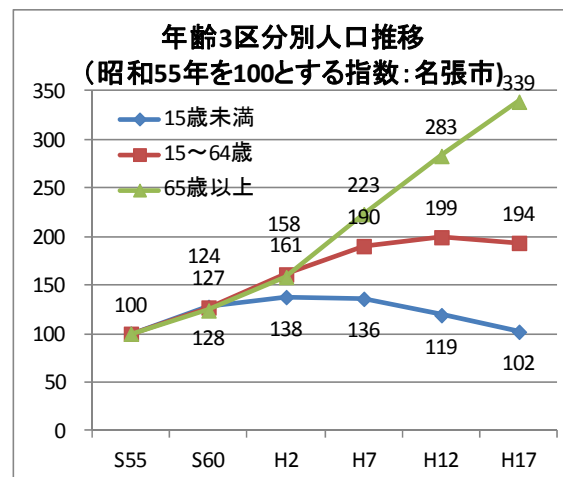
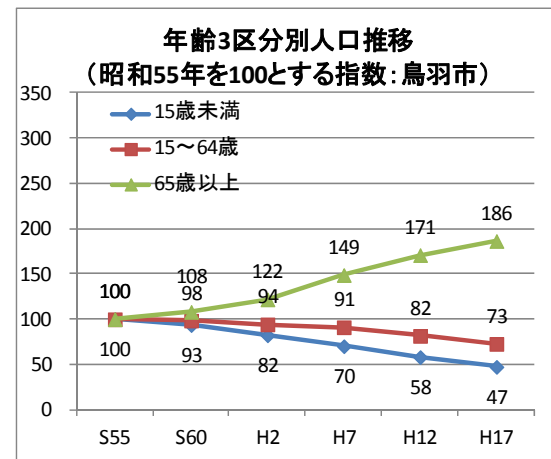
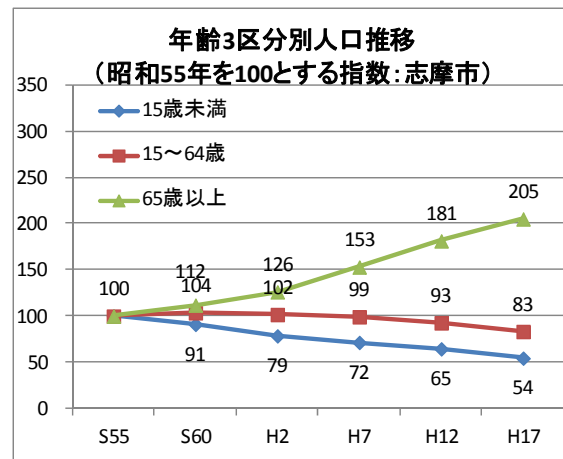
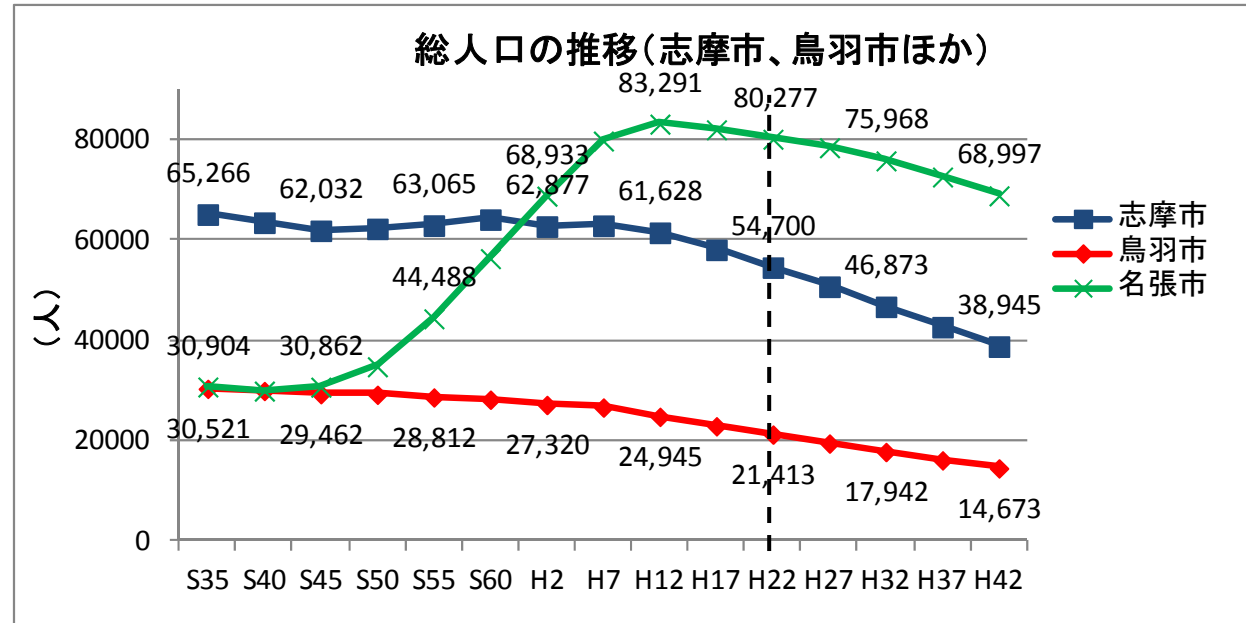


出典：三重県観光局「観光レクリエーション入込客数推計書・観光客実態調査報告書」より作成

出典：総務省統計局「統計で見る市町村の姿2011」、三重県「平成23年刊三重県統計書」、環境省資料などから作成

(3) 人口

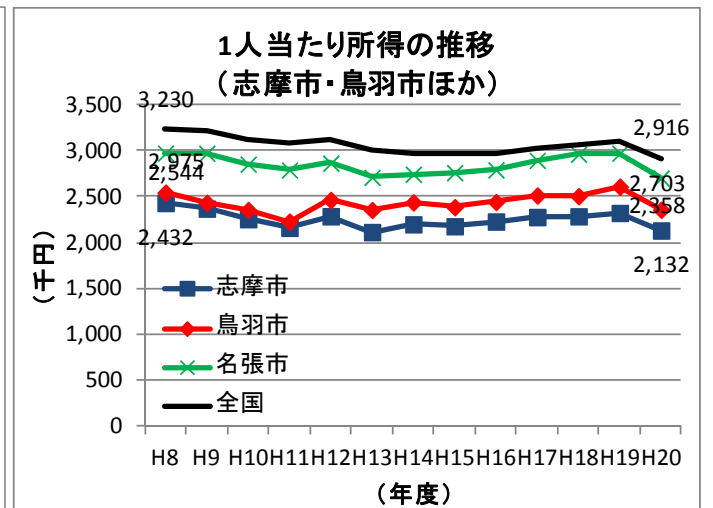
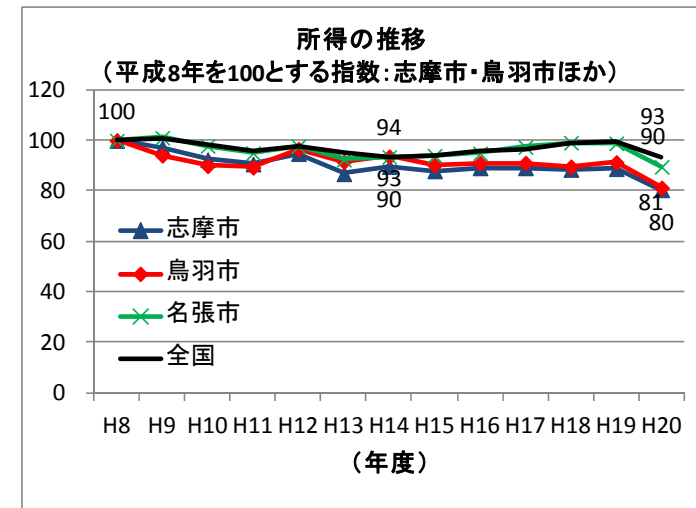
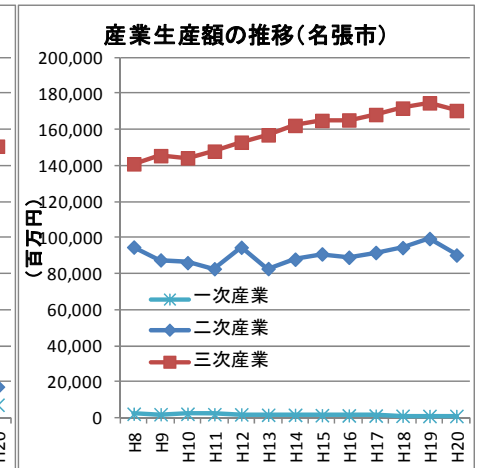
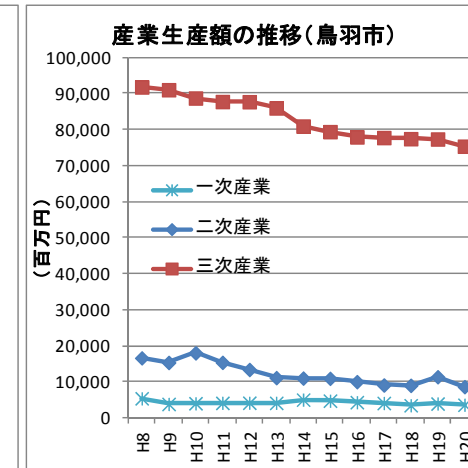
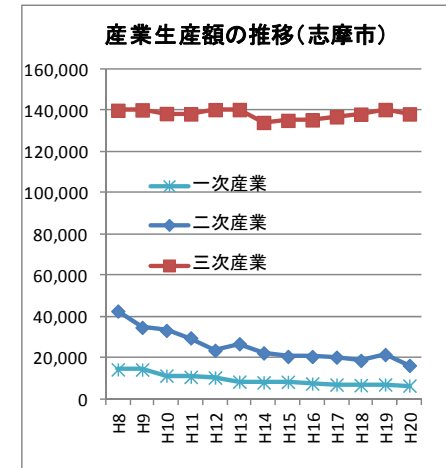
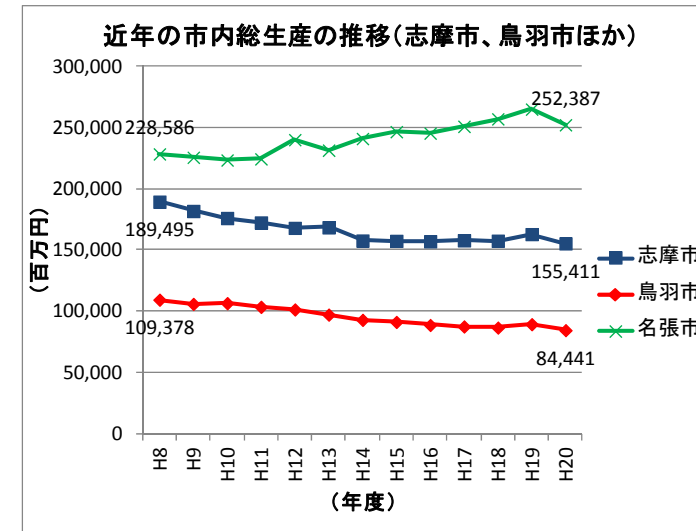
- 志摩市の人口は昭和40年代から62,000～63,000人程度で横ばいであったが、最近では減少傾向にあり、平成12年から22年の間に約1割減少。鳥羽市の人口も同様の傾向。
- 両市について年齢別にみると、少子高齢化が進展しているほか、最近では生産年齢人口（15歳～64歳）の減少が始まっている。



出典：三重県統計書市町(村)累年統計表、国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口(平成20年12月推計)」より作成

(4) 生産・所得

- 志摩市の市内総生産は約1,500億円、鳥羽市は約840億円であり、それぞれ三重県の県内総生産の2.1%、1.2%程度に相当する。10年前と比較して約1～2割減少。
- 両市の経済は観光をはじめとする第三次産業に依存。志摩市では他の産業の生産額は減少する中で第三次産業の生産額は横ばいで推移。鳥羽市では第三次産業の生産額も減少。
- 志摩市について市民所得を見ると、平成20年度は平成8年度と比べて約2割減少。1人当たりの所得は全国の水準の約7割程度で維持。



出典：三重県統計書市町(村)累年統計表より作成

3. 伊勢志摩国立公園における人と自然との共生に向けた取組

- ・近年、観光を手段として自然や歴史、文化などの資源を活かし、循環型の地域社会を形成することを目的として観光事業者や漁協、行政などが連携したエコツーリズムが進められている。
- ・鳥羽市は、観光事業者との連携のもと観光基本計画に基づいてエコツーリズムを推進している。
- ・志摩市は、新規産業の創出や商工業の振興が急務であるとの認識に立ち、市の総合計画に基づいて「新しい里海の創生事業」を開始し、「自然環境が保全された里海のまち」を目指して取組を進めている。

(1) 志摩市・鳥羽市と伊勢志摩国立公園の年表

年代	志摩市・鳥羽市に関わる主な出来事	伊勢志摩国立公園に関わる主な出来事
明治	M20 頃 潜水器による漁業の創業 M21 御木本幸吉 真珠貝養殖開始 M34 三重県立水産試験場設置 M30 年代頃 各地に漁業組合設立	
昭和元年代	S4 志摩電鉄開通(鳥羽賢島間) S6 参宮電車開通(大阪宇治山田間)	S9 鳥羽の日和山エレベーター完成
昭和 20 年代	S26 志摩観光ホテル開業 S27 定期観光バスの運行開始	S21 伊勢志摩国立公園指定
昭和 30 年代	S30 頃 市町村合併(8町村合併により鳥羽市発足、現志摩市となる旧5町のうち4町が発足) S30 鳥羽水族館開館 S34 国鉄紀勢線全通 この頃真珠養殖漁業協同組合設立 S39 伊勢志摩スカイライン開通 伊勢湾フェリー就航	この頃ハネムーンの地として伊勢志摩周遊観光コースに脚光 この頃各町の観光協会設立
昭和 40 年代	S40 志摩電鉄が近鉄志摩線となる S45 近鉄鳥羽線の開通 S48 パールロード開通	
平成	H6「志摩スペイン村」オープン H16 合併により志摩市誕生	H21～鳥羽市観光基本計画に基づきエコツーリズム推進事業を展開 H22 鳥羽市エコツーリズム推進協議会設立 H23 志摩市後期総合計画策定(「新しい里海創生によるまちづくり」が位置づけられる)

出典：環境省資料、鳥羽市資料、志摩市資料より作成

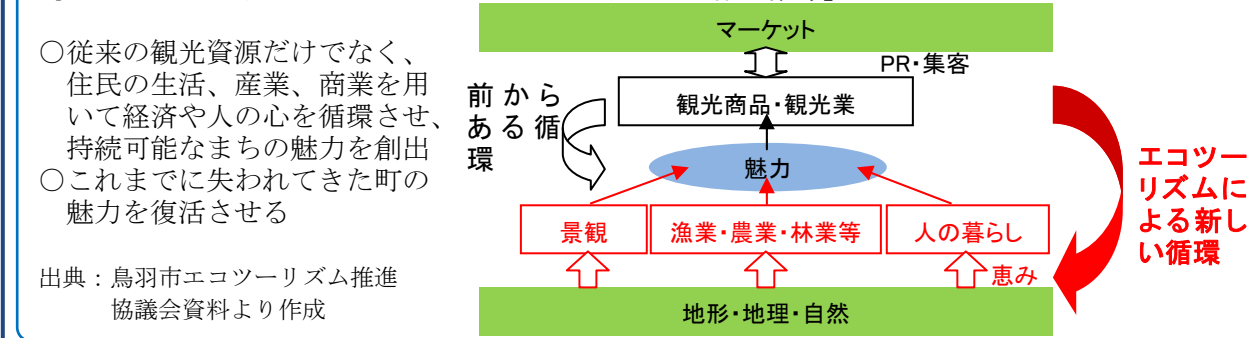
(2) 新たな取組の事例

事例1 エコツーリズムの推進の動き(鳥羽市)

<鳥羽市におけるエコツーリズムの推進の概要>

- ・H20.1 鳥羽市として初の観光基本計画策定
- ・H21.3 観光基本計画に基づくアクションプログラム策定(エコツーリズム推進事業の位置づけ)
- ・H22.7 鳥羽市エコツーリズム推進協議会の設立

鳥羽のエコツーリズムのイメージ「エコツーリズムで作る循環」



<鳥羽市エコツーリズム推進協議会の活動>

協議会の参加団体

観光事業者等 エコツアー事業者、ガイドボランティア団体、水族館	観光関連団体 観光協会、伊勢志摩国立公園協会、旅館組合連絡協議会、観光施設連合会	産業関連団体 漁業協同組合、農業協同組合、商工会議所、商店会協同組合、自治会連合会	鳥羽市(環境課、観光課) 三重県(環境、観光部局) 環境省(地方環境事務所)
---	--	---	--

協議会の活動(例)

- モデルツアー実施、エコツーリズムに係る講習の実施
- 他地域(石川県、静岡県、長野県、沖縄県など)の商工会・観光協会などの視察受け入れ
- CBD-COP10の「生物多様性交流フェア」に出展(H22.10)
- 「鳥羽エコツーリズム宣言」の策定と発表(H23.3)

<関連する環境省等の取組>

「エコツーリズム全国セミナー」の開催
○H22.7に鳥羽市で開催
○環境大臣が出席し、鳥羽のエコツーリズムを発信

エコツーリズム大賞

- H22.1に鳥羽市のエコツアー事業者「海島遊民くらぶ」を第5回エコツーリズム大賞に選定



その他

- 国立公園海域公園地区指定の検討
- エコツアー等に対応した自然歩道の新規整備の検討

事例2 里海づくりを通じた地域の活性化の動き(志摩市)

<志摩市における里海づくりの概要>

- ・H21 志摩市総合計画策定(6つの基本目標の第一に「環境の志一自然と共に生きる」を位置づけ)
- ・H23.3 志摩市後期総合計画策定(「新しい里海創生によるまちづくり」を位置づけ)
- ・H23.5 「里海読本」を策定(志摩市)
- ・H23.6 志摩市役所に「里海推進室」設置

新しい里海創生の課題認識

- 人口減少・高齢化
 - 産業生産額の低迷(県内29市町中26番目)
 - 水産業生産額の減少(354億円(1994)→100億円(2005)、真珠養殖はピーク時の10分の1)
 - 観光入込客数の急減
- ↓
- ・雇用・新規産業の創出、商工業の振興が急務
 - ・様々な対策を効率よく進められないか

出典：志摩市里海推進室資料より作成

新しい里海創生のイメージ

なぜ里海創生か？

- ①「御食つ国」と呼ばれた歴史的背景
- ②真珠養殖産業発祥の地
- ③市の全域が伊勢志摩国立公園
- ④SATOYAMA イニシアティブ(CBD-COP10)
- ⑤海洋に関する政策の推進(総合的沿岸域管理)

新しい里海のイメージ

稼げる里海 農林漁業や観光業などの産業を通じて、水産物や景観といった資源を持続的に利用	学べる里海 地域の産業後継者や環境保全に貢献出来る人材を育成する環境教育の場	遊べる里海 潮干狩りや海水浴などを通じ市民が直接海に触れ、文化や精神面で豊かな生活	保全の取組
---	--	---	--------------

取り組み事例 生活・産業排水対策、藻場・干潟などの保全・再生、里山の適切な利用と保全、自然環境の保全に配慮した農・水産業、観光業の推進、環境と調和した産業を支える人災育成

出典：志摩市里海推進室資料より作成

<関連する環境省等の取組>

国立公園海域公園地区の指定検討

- H21の法改正で設けられた海域公園地区の指定を検討
- H23には23カ所の候補地案を抽出(このうち志摩市地先に安乗崎、英虞湾、麦崎、和具大島・小島、広の浜、黒の浜～岩井崎の6カ所を抽出)

英虞湾の自然再生事業

三重県、志摩市、三重大学等により、英虞湾の自然再生事業が推進されている(H20に英虞湾自然再生協議会を設置)